

## 第3回子ども・子育て会議 意見まとめ

委員名	意見要旨	同旨意見	事務局の見解
鈴木副会長	アンケートの内容も重要であるが、このアンケートをどのように実施していくかが大きなポイントになると考える。		アンケート調査の実施にあたっては、他調査と同様にインターネットからの回答を可能とする、また小学5年生及び中学2年生を対象とした調査については、学校を通じて調査票を配布する等、回収率を上げるための対応を図ります。
	アンケート調査を実施するにあたり雰囲気醸成していくことも重要で、アンケート調査の実施を広く周知するという広報面からの対応も必要。どれほど市民の皆さんに注目していただくかがアンケートの回収率の向上に繋がるのではないかと感じる。	山本委員	各種調査に係る実施目的等を川越市ホームページに掲載するとともに、X (Twitter) やFacebook、LINEで調査実施について投稿し、周知を図っております。また、関心を持ってもらえるよう、配布用の封筒に回答を呼びかける挿絵を入れました。
今野委員	小学5年生はある程度理解できる年齢だと思うので、このアンケート調査に回答することによって、それがどのように施策に反映されるのか等、学校の先生方の協力のもと、子どもに説明できると良い。	近藤委員	教育委員会と協議し、各学校に調査票の配布依頼をする際、併せて児童生徒への説明用資料を教員に配布することにより、教員から児童生徒への説明を行っていただくこととして調整いたしました。
	今の子ども達はタブレットをかなり活用できると思うので、対応が難しいかもしれないが、ホームページにアクセスしなくても調査に回答できるような設計をして、宿題感覚で子どもが回答できる環境ができれば良いと思う。		調査委託業者に確認したところ、調査票を各子どものタブレットにダウンロードして回答することは技術的に困難という見解でした。そのため、タブレットから回答する場合においても、他調査と同様にインターネットに接続した上で回答いただくこととなります。
	18歳から39歳の方が対象のアンケートについて、年齢の幅が広いので、10代、20代、30代と回答者の年代が分かった方が良い。	松本委員 井守委員 山本委員	御意見を踏まえ、調査票に設問を追加いたしました。

## 第3回子ども・子育て会議 意見まとめ

委員名	意見要旨	同旨意見	事務局の見解
今野委員	保護者対象のアンケートについて設問量が膨大かと思われる。多忙の保護者も多いかと思うので、周知方法がとても重要。保護者に対し、メールで協力依頼ができれば記録に残るので、回答を忘れていたとしても後から見返すことができ、回収率を上げるひとつの方法になるかと思う。	近藤委員	教育委員会に確認したところ、一部の学校においては保護者へメール送信しているものの、全校での実施ではないとのことでした。 小学5年生・中学2年生であれば、教員から保護者に必ず渡すように伝えれば対応してくれるものと思われること、また全対象者に一律な対応を行うという観点から、メール送信は行わないものとして考えております。
松本委員	子ども対象のアンケートについて、学校で回答するのは難しいかもしれないが、設問には踏み込んだ内容もあるため、少なくとも保護者に見られて困る設問等については、学校で回答できる体制が必要ではないかと感じる。	中田委員 井守委員 田村委員 榎本委員	各調査票における頭紙の部分で、子ども自身の回答内容を保護者に見せる必要はないことを示させていただきました。 加えて、教育委員会と調整し、教員からも児童生徒に対してその旨の説明をしていただくこととしております。 また、授業等の中でアンケートへ回答することは、センシティブな質問もある中で、他の児童生徒に回答内容を見られてしまい、いじめに繋がるリスクもあることから、その点に鑑みても、授業等以外で回答することが望ましいと考えております。 なお、学校での回答を希望する児童生徒につきましては、個別に申し出れば相談室等で回答することは可能とのことであり、このことにつきましても調査票配布時に教員から伝えていただくこととしております。 加えて、自宅にインターネット環境がない場合、必要に応じて学校からルーター等の貸し出しを行っており、本調査への回答であれば貸し出しは可能とのことでした。
中田委員	小学5年生のアンケートについて、ボリュームが多いと率直に感じた。		御意見のとおり、アンケート調査の回収率を考慮し、少なくともこれ以上の設問の追加は難しいと考えております。

## 第3回子ども・子育て会議 意見まとめ

委員名	意見要旨	同旨意見	事務局の見解
影山委員	<p>どの調査票においても、ワーディングがとても重要と考える。調査項目や設問内容は然り、加えてリード文や選択肢を含め、それらが回答者自身に対し、どのような印象を与えるか、回答者の立場を色々と想像しながら、ワーディングをブラッシュアップしていく必要がある。</p> <p>そうすることで、X (Twitter) 等での思いもかけない形での拡散を防ぐことに繋がると思われる。</p>		<p>御意見を踏まえ、調査票の作成にあたりましては、リード文を含め、回答者のそれぞれの立場をイメージし、細心の注意を払いながら作成してまいります。</p>
	<p>18～39歳の方を対象とした調査票の問16（相談先）について、選択肢「誰（どこ）にも相談しない・相談できない」は分けた方が良いと思う。例えば、「誰（どこ）にも相談しようと思わない」と「相談できる相手（先）がない」等。</p>		<p>御意見を踏まえ、調査票の選択肢を修正いたしました。</p>
	<p>18～39歳の方を対象とした調査票の問17（自宅での過ごし方）について、「ひたすら寝る（休む）」という人も多いのではないかと。</p>		<p>御意見を踏まえ、調査票の選択肢を追加いたしました。</p>
	<p>18～39歳の方を対象とした調査票の問19（外出に関する事）について、外出の頻度、外出目的、外出しない理由、外出の範囲等について一度に聞こうとしているため答えづらいのではないかと。</p>		<p>当該設問の主旨は、引きこもりやニートといった社会参加していない方の状況を把握することですので、外出していたとしても、自分の趣味のみを理由とした外出や、近所のコンビニへの買い物程度であれば、派生した経過期間や原因といった設問に答えていただきたいと考えています。</p> <p>その点を踏まえ、御指摘の外出頻度、目的、理由、範囲等を分けて設問を設定した場合、派生した設問に答えていただく方を誘導する流れが、現状より煩雑化してしまう恐れがあることから、現状のままとさせていただきます。</p> <p>その上で、提示した選択肢以外の方もいる可能性もあることから、選択肢に「その他」を追加しております。</p>

## 第3回子ども・子育て会議 意見まとめ

委員名	意見要旨	同旨意見	事務局の見解
影山委員	18～39歳の方を対象とした調査票の問19-1（外出しなくなっ てからの期間）について、「そのような状況になって」という表現 がネガティブではないか。		御意見を踏まえ、設問のリード文を修正いたしまし た。
	18～39歳の方を対象とした調査票の問19-2（外出しなくなっ た原因）について、複合的な理由によるのではないか（マルチアン サーが妥当）。		御意見を踏まえ、あてはまる選択肢を複数選択でき るように修正いたしました。
	18～39歳の方を対象とした調査票の問20（支援機関）について、 「知っている」というレベルには様々あると思う。加えて、一つ 一つの機関について確認しなくて良いのか。また、問20につい て、利用したことがある、利用中などの状況は確認できなくて良 いか。		御意見を踏まえ、施設ごとに「知っている」「利用し たことがある」「利用したい」について質問する形と いたしました。また、「知っている」というレベルに ついては利用実績・利用希望と併せて問うことで判断 可能と考えております。
	18～39歳の方を対象とした調査票の問21（希望する職業の有無） について、今の仕事を続けたい人のなかにも「ない」を選ぶ人も いると思う。（「3.すでにその職業に就いている」を選ぶのも 違和感がある） そうすると、問21-2（希望する職業がない理 由）の選択肢に「現状維持」的なものが必要なのではないか。		御意見を踏まえ、選択肢を追加いたしました。
	18～39歳の方を対象とした調査票の問22（婚姻状況）について、 結婚の有無・離婚状態などについては別項目で聞いたうえで、そ れについての考えを聞いた方が良いのではないか。		御意見を踏まえ、設問の流れを修正いたしました。

## 第3回子ども・子育て会議 意見まとめ

委員名	意見要旨	同旨意見	事務局の見解
影山委員	18～39歳の方を対象とした調査票の問24（子どもの有無）について、子どもの有無・妊娠状態などについては別項目で聞いたうえで、それについての考えを聞いた方が良いのではないか。また、選択肢で「子どもは授かりたいが、1人か2人でいい」の「でいい」という表現には、子どもは多い方が良いという価値感が入っていると思われる。		御意見を踏まえ、設問の流れを修正いたしました。また、御指摘の選択肢の表現につきましても修正いたしました。
	18～39歳の方を対象とした調査票の問25（子どもの現況・将来像）について、子どもを授かることのできない人への配慮が必要。		御意見を踏まえ、選択肢を追加いたしました。
山本委員	小学5年生本人が対象の調査票の問6（家族の困りごと）について、選択肢に「家にお金がなく、食事や着る服がないときがある」とあるが、保護者が子どもへの関心がなく、食事や着る服がないというケースもあり得るため、家にお金がなくという訳でもない場合、どの選択肢を選ばせれば良いかと感じた。		御意見を踏まえ、選択肢を修正いたしました。
	小学5年生本人が対象の調査票の問23（活動状況）の選択肢Fについて、家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）とあるが、子ども自身の部屋の掃除や片付けについては、家事に当たるのかどうか、家のこととしてやってるのかという点で区分しておくかと思う。		子ども自身のことか、家のことかにつきましては、各家庭での考え方がそれぞれ異なり、定義づけが難しいことから、現状の選択肢のままとさせていただきます。
水谷委員	子どもの貧困については、経済的な面だけでなく、精神的な面もあり、その精神的な貧困は家族や友達との関係の中で出てくるもの。精神的な貧困を解決するために、子ども自身が行うこととして友達関係の改善がある。その観点から、削除予定となっている友達に関する設問について、再度検討いただければと思う。		アンケート調査の回収率を考慮しますと、これ以上の設問の追加は難しいと考えております。

## 第3回子ども・子育て会議 意見まとめ

委員名	意見要旨	同旨意見	事務局の見解
水谷委員	インターネットに関する設問は良いと思うが、設問として統一されていない気がしている。例えば、勉強に関する設問があるが、今の子どもは、勉強の際にもインターネットを活用すると思うので、そのような観点を加味して、インターネットとリンクさせた設問とする等、検討すれば更に良くなるのではないかと思う。		インターネット利用に関する設問の選択肢の中で「学習のための情報収集をする」等、勉強とリンクしたものとしております。
田村委員	18歳～39歳の方を対象とした調査も同様に、調査実施方法について、調査への回答方法を含め、検討いただきたい。	近藤委員	回収率が懸念される対象の調査となりますので、御意見を踏まえ、回収率を少しでも高くできるよう、先の御意見への回答にもありました市ホームページやSNSでの周知を積極的に行ってまいります。
長峰委員	子ども対象の調査の中で、子どものお金事情に関する設問がないが、例えば、お小遣いを誰からもらっているか、月額などといった設問を加えても良いかと感じた。		お小遣いについては、経済的理由ではなく、家庭の方針等でもらっていない子どももいることが考えられ、当該設問の回答結果からの分析は難しいかと考えております。その点から、設問の追加については見送らせていただきました。
榎本委員	調査票を学校を通じて配布する場合、引きこもりや不登校の子どももいると思われるため、そのような子どものための対応方法についても検討すべき。	井守委員 近藤委員	教育委員会に確認したところ、不登校等で学校に來られていない児童生徒への配布物については、週に一度を目安に保護者が取りに来る、又は自宅に届けることとされており、本件調査票についても同様の対応により配布いたします。 なお、御意見を踏まえ、該当の児童生徒の自宅へ郵送することも検討しましたが、特別な対応をすることに対し、受け取り手に疑念を抱かせる可能性もあることから郵送での送付は見送っております。
	小学5年生本人が対象の調査票において、学校での楽しみに関する設問が今回削除予定となっているが、不登校の子どももいる中、学校で何が楽しみなのかを問う設問も必要かと思った。  6		アンケート調査の回収率を考慮しますと、これ以上の設問の追加は難しいと考えております。

## 第3回子ども・子育て会議 意見まとめ

委員名	意見要旨	同旨意見	事務局の見解
近藤委員	調査の設問数が多いことから、回答にあたって子どもは途中で疲れてしまうこともあるかと思われるので、タブレットを利用した回答が良いと思う。その方が、子どももゲーム感覚で回答することができ、また、学校の先生方の負担軽減にも繋がるのではないかと感じた。		タブレットを活用しての回答（インターネットからの回答）の際は、自身で回答の進捗状況を確認することができ、また回答途中であっても保存することが可能となっております。
	調査対象の小学5年生の子どもは、小学1年生の終わり頃からコロナ禍になり、休校期間等の経験を経て現在の普通の生活に至っている。そのため、コロナ禍前よりも子どもが友達の家に行く機会が減っていると感じており、子どもの放課後の過ごし方についてはコロナ前と状況が異なっている。このことから、外出に関する設問があるが、家にいることが多いことがイコール引きこもりではないというような考え方も必要で、そのことを踏まえた選択肢も検討した方が良いと思う。		御意見を踏まえ、選択肢を修正いたしました。
	色々なところで、川越市のLINEが見やすく便利になったという声を聞くため、そのようなLINE等のSNSを活用も良いかと思った。		調査実施に係る周知にLINEを含め、SNSを活用しております。また、今後テーマを絞った（設問数を絞った）アンケート調査などについては、LINEで実施することを検討してまいります。
春原委員	子どもが感じていることを保護者がどれくらい理解できているか把握する観点から、調査での子どもの回答と保護者の回答とで何らかの接点やリンクできるものがあれば良いと感じた。		小学5年生、中学2年生、16歳・17歳を対象とした調査については、子どもの回答と保護者の回答を紐づけすることができるようにしておりますことから、御意見については今後の分析で対応できるものとしております。
	子どもは困っていることに限らず、話したいことがたくさんあるため、困っていることに限らず、自由に意見を書く欄があっても良いと感じた。		該当の自由記述欄について、リード文に「など」を追加することで「困っていること」以外にも記入することを妨げないようにいたしました。